

## 学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導 確かな学力の育成について、個々の生徒の習熟度を把握し、基礎学力の定着を図る指導が実践できており、非常に力強い。生徒が次の学習意欲が湧く授業への取組が求められる。</p> <p>(2) 特別活動 主体性を持って活動することはとても大切だと思う。生徒の夢をこれからも形にしてあげて欲しい。 学校行事や大会に積極的に参加できる生徒が増えているとあり、社会に出る準備ができつつあると感じる。</p> <p>(3) 生徒指導 先生と生徒との人間関係をより密にして、生徒の理解に努めていただければと思う。 SNS等の使用方法については、繰り返し巻き返し指導していく必要があると感じる。スシロー事件など、一瞬で人生が終わるような事例を見るとぞっとする。 全教職員でデータを共有して、一つの問題でも全員で取り組めており、よいと思う。</p> <p>(4) 進路指導 キャリアデザインを含め、自己と向き合い、人生設計できるように対応していただきたい。 例えば、競馬騎手など、幅広い職業を紹介してほしい。</p> <p>(5) 人権・同和教育 世界情勢を見て、ウクライナのことやLGBTQについても考える機会を提供していただきたい。 命の教育・人権の大切さを更に推進していただきたい。</p> <p>(6) 保健管理 基本的な生活習慣が健康管理にとって重要となる。きちんとした食生活により、健康の維持ができるよう家庭との連携に努めてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後とも個々の生徒の習熟度を把握し、生徒が意欲的に活動できる学習環境を整えたい。特にコミュニケーション、表現、会話を重視した教科の充実を図りたい。</li> <li>・ 生徒たちが主体的・積極的に参加できる環境を教職員で考えていく。その中でも、押し付けにならないよう生徒会を中心とした生徒の意見を反映させながら、より活動を充実させていく。</li> <li>・ 学校生活と卒業後の社会生活の繋がりを意識させ、集団に属する意義を見出せるよう指導していく。</li> <li>・ SNS等の使用や情報モラルについては、繰り返し継続した指導が行えるよう、学校内だけではなく関係諸機関との連携を密にし、講演会や講習会の活用をしながら指導に取り組む。</li> <li>・ 担任による個人面談にとどまらず、教科担当による面談や声掛けを行い、教員間での情報交換や保護者との連携を行い、より深く生徒理解に努める。</li> <li>・ キャリア教育を支援する諸機関や「えひめ学校・地域教育サポーター」を活用して、幅広い情報提供や啓発活動を行いたい。</li> <li>・ 諸機関と連携し、多様なテーマについての啓発資料を、日常の教育活動で活用できる工夫をしたい。</li> <li>・ 食べること、運動すること、よく眠ることが健康の源と考え、引き続き外部講師等を活用した食育教育の授業実践を行いたい。</li> </ul>

No. 2

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(7) 安全管理 防災意識は徹底した周知活動によって高められると思うので、学校でも家庭でも、日頃から対策に努めてほしい。講習会において修了証をいただける取組は、生徒にとっても励みになる。</p> <p>(8) 特別支援教育 現代の教育において、特別支援教育は一つの柱である。一人一人への関わり方について共通理解と研修の充実を期待したい。</p> <p>(9) 研修 黒板がホワイトボードに変わり、ICT機器を活用した授業を見せてもらい、授業力がアップした感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や就業先、外出時において被災した際にも、落ち着いて行動できるように研修を深めて、災害に対する備えを徹底していきたい。</li> <li>・ 特別支援教育に関する情報の共有に努め、教職員の特別支援教育に対する理解を更に深めたい。また、生徒の実態に適した個別の対応策を実施できるように、関係諸機関等との連携を深めたい。</li> <li>・ ICT機器の使用は、目的ではなく手段であることを明確にして、授業力をアップさせな</li> </ul>

があった。教員の積極的な研修成果が上がり、授業に生かされている。次年度も授業公開の場の提供を継続していただきたい。

(10) 保護者との連携

先生と保護者の関係はとても重要である。しっかりと保護者との連携がなされており、このことが不登校の改善にもつながっていると思う。欠席確認等のための電話連絡は大変であるが、積み重ねることで保護者との連携が取れるようになるので続けてほしい。保護者の子育ての悩みも解決できればもっといいと思う。

(11) 業務改善

先生方の精神面の健康管理が一番である。働きやすい職場環境になっているようで、うらやましく思う。常時、心身のリフレッシュに努めてもらいたい。また、国や県の通知、数値にとらわれず、先生方のやりがいや生きがいにつながる業務改善であってほしいと思う。

2 重点目標について

今後も、まずは出席率9割を目指してほしい。  
新入生で登校できなくなった生徒が多いのは残念である。子供たちにとって学校が居心地の良い環境であってほしいと思う。一方、中学時に学校に行けなかった子供たちが、生き生きと学びに向き合っている生徒も多いことは素晴らしく、安心した。  
部活動での情報、漢検等、各種資格検定では積極的な全員取組で好成績を収め、生徒の大きな自信となっている。

3 説明・公表について

ホームページの更新や「八定だより」の毎月の発行など、学校生活を可視化できることが、情報発信や生徒理解につながっている。本年度、初めて実施した公開授業はとてもありがたかった。このような場の提供を継続してもらいたい。

4 その他（学校運営についての要望）

校内俳句コンテスト入賞作品は良句が多く、自然や身の回りに目を向けた、生徒のみずみずしい感性に感銘を受けた。今後も、このような特色ある取組を実践してほしい。

がらも生徒の学習意欲の向上につながる研修を重ねていきたい。

- ・今後も普段から保護者との連絡を密にし、学校と家庭の連携を図る。また、学校行事が情報交換の場となるように、より多くの保護者に参加してもらえるように努める。

- ・引き続き、休暇取得しやすい環境づくりに努め、職員の心身のリフレッシュを図り、やりがいと生きがいを持って働ける職場としたい。

- ・少人数の利点を生かし、個に応じた細やかな指導で、学力の定着や資格取得を支援するとともに、社会性や豊かな人間性の育成に努めたい。

- ・更に生徒、地域、保護者が興味を抱くような情報発信に努め、本校定時制の正しい情報が伝わるようにし、地域の要望に応えられる学校を目指したい。

- ・俳句コンテストや資格取得の推進、地域人材の活用など、今後も魅力ある取組を実践したい。